

演繹推理學序

思想アレハ茲ニ言語アリ苟モ人タル以上ハ如何ナル蠻

野未開ノ民ト雖モ多少ノ思想ナクンハアラス故ニ之ヲ

發露スルノ言語アルナリ文運ノ未タ普及セサル尙ホ文

學文章ヲ知ズルノ民アリ言語ナキノ人民アラス唯タ言

語ハ思想ニ伴フテ進退消長ス蠻民ノ思想ヤ粗雜ニシテ

偉少ナリ故ニ其言語モ亦粗雜ニシテ僅少ナリ開明人ノ

思想ヤ精細ニシテ多シ故ニ其言語モ亦精細ニシテ多シ

文明進メハ思想進步シ思想進步シテ言語亦進步ス之ヲ

本邦近時ノ事ニ徴セン乎其交ヲ泰西諸國ト通セサルニ



方アハ人民未タ權理自由民權國權主權等ノ何者タルヲ知ラズ是レ日本人民ノ腦中未タ此等ノ思想ナカリシナリ故ニ其言語ナシ設ヘ是レアリトスルモ今日用ウル所ト大ニ其意義ヲ異ニセリ今ノ所謂ル自由ハ嘗テ用非シ勝手自由ノ自由ト其意義大ニ異ナルニ非スヤ開港以來新思想ノ腦中ニ生セル者多シ故ニ新言語ノ生出セル者亦多シ嘗タ新言語ノ生出セル者多キノミナラス舊言語ニシテ意義ノ精細緻密ニ趣ケル者少ナシトセス是レ邦人ノ思想大ニ進歩改良セル明証ニ非スヤ粗雜ノ言語ハ以テ精細ノ思想ヲ吐露スル能ハス議論ヲ爲スニ粗雜ナ

ル言語文章ヲ用ウレハ其聽者見者ヲ誤サルヲ幾シト稀ナリ世人ノ義ヲ立テ説ヲ演フル何ソ容易ナル議論決シテ容易ノ者ニ非カルナリ言語ノ不充分ナル字義ノ漠然タル尙ホ以テ之ヲ使用スル人民ノ未開ヲ徴スルニ足ル況ンヤ漠然タル言語文章ヲ以テ漠然タル議論ヲ發露スルオヤ嘗タ外人ノ侮ヲ招クノミナラス國家ノ文明亦進歩スル能ハサル可シ今マ邦人ノ言論文章ヲ以テ歐米人ノ言論文章ニ比ス其精粗固ヨリ日ヲ同ウシテ語ル可ラス是レ思想ノ精粗相ヒ同シカラサルニ因ルト云フト雖モ言語文章ノ精粗亦幾何カ思想ノ精粗ニ影響セスト

云フ可ラス嗚呼本邦人ノ議論ヲ輕視スルヤ久矣余心竊  
ニ之ヲ慨ス故ニ演繹推理學ヲ著ハシテ思想ニ法アリ言  
語ニ則アリ議論ニ格アルヲ示シ之ヲ初學ノ徒ニ授クト  
云爾

明治十五年一月

尾崎行雄誌

目次

第一章	推理學大意	一丁
第二章	推理資料	六丁
第三章	名辭概論	十丁
第四章	命題概論	十八丁
第五章	命題轉換	二十七丁
第六章	思慮定則	三十五丁
第七章	三段論証	四十二丁
第八章	三段論証定則	四十九丁
第九章	三段論式	六十七丁
		五